

# Sun ONE Calendar Server リリースノート

## Version 5.1.1

Part Number 816-6450-10

改訂版 2002 年 11 月 4 日

---

このリリースノートには、Sun™ Open Network Environment (Sun ONE) Calendar Server 5.1.1 がリリースされた時点での重要な情報が記載されています。内容は次のとおりです。

- Calendar Server 5.1.1 の新機能
- Calendar Server 5.1.1 の修正済みの問題
- Calendar Server 5.1.1 インストールノート
- これまでに判明している問題点と制限事項
- Calendar Server 5.1.1 マニュアル
- Calendar Server 5.1.1 ローカリゼーション
- 問題点の報告方法
- 詳細情報について

Sun ONE Calendar Server の以前の名称は iPlanet™ Calendar Server です。

Calendar Server 5.1.1 をインストールする前に、このリリースノートを読んでください。このリリースノートは下記のマニュアル Web サイトでも参照できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1calsrv?l=ja#hic>

Calendar Server 5.1.1 をインストールし使用を開始した後も、この Web サイトを定期的にチェックして最新マニュアルを確認してください。

---

# Calendar Server 5.1.1 の新機能

Calendar Server 5.1.1 ではパフォーマンスが向上しバグが修正されていることに加え、次の新しい機能が追加されています。

- インストールの変更
- Calendar Express ユーザーインターフェース (UI) の改良
- LDAP カレンダー検索データベース (CLD) プラグイン
- カレンダー検索データベース (CLD) キャッシュ
- WCAP コマンド用の新しいタイムゾーンパラメータ
- Calendar UI XML タグの変更
- XSL の変更
- cstool ユーティリティから Ping ENS への改良
- ENS メッセージ通知の改良
- 「イベントについて連絡する人」オプション用の新しい構成パラメータ
- ロックの場所、プロセス ID、カウンタファイル用の新しい構成パラメータ
- セッションデータベース用のメモリベースのファイルシステム
- local.ugldapicsextendeduserprefs パラメータの改訂
- storeevents および storetodos WCAP コマンド内のデフォルトタイムゾーン

## インストールの変更

Calendar Server 5.1.1 では次のようなインストールの変更が行われています。

- Calendar Server 5.1.1 インストールのアーカイブファイルは、ファイル名に言語コードを含むローカライズ版を識別する。詳細は「ローカライズ版のインストール」を参照
- Calendar Server のアップグレードを実行すると、インストールプログラムにより旧版のローカライズされたリソースが削除される。詳細は「旧版のローカライズされたリソースの削除」を参照

- ローカライズのプロセスを簡素化するために、XSL ファイルのテキスト文字列を変数に変換済み。詳細は「ローカライゼーション用の i18n.xml ファイル内の変数」を参照

## Calendar Express ユーザーインターフェース (UI) の改良

Calendar Server 5.1.1 には、エンドユーザの生産性を高めるために UI の改良が数多く実施されています。これらの新しい機能については、次のドキュメントで解説されています。

『Calendar Express 5.1.1 の新機能』

このドキュメントをエンドユーザが利用して、新しい機能を活用できるようにしてください。

## LDAP カレンダー検索データベース (CLD) プラグイン

LDAP カレンダー検索データベース (CLD) プラグインでは、カレンダーデータベースの水平方向のスケラビリティを実現しています。単一の Calendar Server インスタンスのための多数のバックエンドサーバに、ユーザおよびリソースカレンダーを分散できるためです。LDAP CLD プラグインでは、icsDWPHost 属性を使用してカレンダーが配置されているバックエンドサーバを判別します。

---

**注** Calendar Server では、旧リリースとの互換性を保つために、アルゴリズム型 CLD プラグインを提供しています。しかし、LDAP CLD プラグインとインターフェースには、アルゴリズム型 CLD プラグインとの互換性がありません。ユーザ独自の CLD プラグインを記述してある場合は、Calendar Server 5.1.1 で動作させるために新しいインターフェースを追加する必要があります。詳細については『Calendar Server 5.1.1 プログラマーズガイド』を参照してください。

Calendar Server 5.1.1 リリースでは、CLD プラグインのメジャーバージョン番号が 1 から 2 になりました。マイナーバージョン番号は 0 のままです。独自に記述した CLD プラグインがある場合は、プラグインを変更して新しいメジャーバージョン番号をサポートする必要があります。

分散データベースには、アルゴリズム型 CLD プラグインではなく、新しい LDAP CLD プラグインを使用することをお勧めします。

---

LDAP CLD プラグインをサポートするために、Calendar Server 5.1.1 は次の項目を備えています。

- `ics.conf` ファイルに新しい構成パラメータを追加。新しいパラメータの説明や LDAP CLD プラグインの構成方法については、『Calendar Server 5.1.1 管理者ガイド』を参照してください
- `csuser`、`cscal`、および `csresource` ユーティリティの変更。『Calendar Server 5.1.1 管理者ガイド』を参照してください
- 新方式の CSAPI `csICalendarLookup` プログラミングインタフェース。『Calendar Server 5.1.1 プログラマーズガイド』を参照してください
- Calendar Server LDAP スキーマの変更。『Calendar Server 5.1.1 Messaging and Collaboration スキーマリファレンス』を参照してください
- LDAP CLD プラグインをサポートするようにカレンダーデータベースを移行する `csmig` 移行ユーティリティ。`csmig` の実行方法については、『Calendar Server 5.1.1 インストールガイド』を参照してください

## カレンダー検索データベース (CLD) キャッシュ

CLD キャッシュ オプションでは、LDAP CLD プラグインを使用して Calendar Server のパフォーマンスを向上します。カレンダーユーザの DWP ホストサーバの情報 (`icsDWPHost LDAP` の属性) をキャッシュして、LDAP ディレクトリサーバへの呼び出しを減らすためです。

CLD データベースのキャッシュを使用するには、次の構成パラメータがデフォルトの「yes」に設定されていることを確認してください。

- `caldb.cld.cache.enable = "yes"`

ほかに CLD キャッシュオプションに使用される構成パラメータは次のとおりです。

- `caldb.cld.cache.logfilesize` CLD キャッシュ用のチェックポイントファイルの最大サイズを M バイト単位で指定する。デフォルトは「10」
- `caldb.cld.cache.mempoolsize` CLD キャッシュオプション用の共有サイズを M バイト単位で指定する。デフォルトは「4」
- `caldb.cld.cache.maxthread` CLD キャッシュオプション用の最大データベーススレッド数を指定する。デフォルトは「1000」
- `caldb.cld.cache.homedir.path` CLD キャッシュオプション用のデータベースのイベント、仕事、およびアラームファイルの位置を指定する。デフォルトは `server-root/var/csdb/cld_cache` ディレクトリ

- `caldb.cld.cache.checkpointinterval` CLD キャッシュオプション用のチェックポイント間隔を秒数で指定する。デフォルトは「60」
- `caldb.cld.cache.circularlogging` CLD キャッシュオプションとの同期後にチェックポイントファイルを削除するかどうかを指定する。デフォルトは「yes」

## WCAP コマンド用の新しいタイムゾーンパラメータ

- `tzidout` は、日 / 時間の値を含む `fetch` および `store` コマンド内の出力値のタイムゾーンを指定する。このパラメータは、イベントの `dtstart`、`dtend`、および `dtdue` の値で指定されたタイムゾーンを反映する
- `replace` は、出席者などのセミコロン区切りの値を `storeevents` および `storetodos` コマンドで置換または付加するかどうかを指定する。1 の場合は、セミコロン区切りの属性に指定された値がすべて元の値に置き換えられる。デフォルトの 0 の場合は、値が付加される

新しいパラメータの詳細については、『Calendar Server 5.1.1 プログラマーズガイド』を参照してください。

## Calendar UI XML タグの変更

UI をカスタマイズしている場合は、次の変更についても考慮してください。

- `componentlist` タグの `listeventcanvas` タグとの置換
- `weekcal`、`componentlist`、`monthcal` タグに追加された新しい属性
- 新しい属性を含む `userctx` の生成された XML

### **componentlist タグの listeventcanvas タグとの置換**

5.1.1 リリースでは、`componentlist` タグが `listeventcanvas` タグに置き換えられています。

### **weekcal、componentlist、monthcal タグに追加された新しい属性**

`format="optimize"` 属性が `weekcal` タグに追加されています。この属性を使用すると、XSL 向けに作成された生成された XML が最適化され、旧版の XSL はフォーマットに使用できなくなります。

コーディング例 1 では、weekcal タグ用の生成された XML の最適な形式を示します。週の平日それぞれに宣言が存在します。現リリースでは土曜日と日曜日を除外できるようになりました。また、この weekday 宣言には、任意の日に関連付けた終日イベントと時間指定のない仕事をどれでも含めることができます。

週の有効時間ブロックごとに timeblock 宣言が 1 つ存在します。最初の時間ブロックはユーザの開始日、あるいはその週最初のイベント / 仕事がある日のどちらか早いほうで決められます。最終の有効時間ブロックは、ユーザの最終日、あるいはその週最後のイベントがある日のどちらか遅いほうで決められます。

numIntervals では、イベントグループに必要な表のセル数を示します。セル数が 1 より大きい場合は、イベントグループは複数の時間ブロックにまたがります。0 の場合は、表のセルが前の列に使用されています。平日 1 日では、イベントが componentGroups として一覧表示されたままになります。

#### コーディング例 1 weekcal タグ用の生成された XML の最適な形式

```
<weekcal format="optimize">
<weekday iso="20020303T000000" year="2002" month="03" date="03"
hour="00" minute="00" seconds="00" dow="1" weeknum="10">

<command>
javascript:parent.jmain.newViewCommand('dayview:main','20020303T000000',
'true','calid','jsmith')
</command>

<command>
javascript:parent.newPopupCommand('new_event','fillindate','&tab=1&cal
id=jsmith','extraargs','1015350936','700','650')
</command>

</weekday>
<timeblock>
<StartTime iso="20020303T090000" year="2002" month="03" date="03"
hour="09" minute="00" seconds="00" dow="1" weeknum="10"/>
<EndTime iso="20020303T100000" year="2002" month="03" date="03"
hour="10" minute="00" seconds="00" dow="1" weeknum="10"/>
<weekday numIntervals="1"/>
<weekday numIntervals="1"/>
<weekday numIntervals="1"/>
<weekday numIntervals="1"/>
<weekday numIntervals="1"/>
<weekday numIntervals="1"/>
<weekday numIntervals="1"/>
</timeblock>
</weekcal>
```

showbusylist="" 属性が monthcal、componentlist、および weekcal タグに追加されています。showbusylist="" が含まれている場合は、表示されているカレンダーの空き時間ブロック情報が生成された XML にも含まれ、アクセスは可能ですがアクセスの読み込みはできません。空き時間情報は通常のコンポーネント情報の間に点在し、次のような形式になります。

```
<Busy e_Calid="jsmith" e_Calid_encoded="jsmith">
  <StartTime iso="20020328T120000" year="2002" month="03" date="28"
    hour="12" minute="00" seconds="00" dow="5" weeknum="13"/>
  <EndTime iso="20020328T130000" year="2002" month="03" date="28"
    hour="13" minute="00" seconds="00" dow="5" weeknum="13"/>
</Busy>
```

### 新しい属性を含む userctx の生成された XML

XML の userctx タグは変更されていませんが、現行の生成された XML にはユーザの言語文字セットを示す属性も含まれています。たとえば次のようになります。

```
<user name="john" firstName="John" lastName="Smith" fullName="John Smith"
mail="john.smith@sesta.com" language="ja"/>
```

## XSL の変更

このリリースでは XSL を大幅に変更しています。すべての新しい XML ファイルを取り込むことができますが、ユーザ独自の XSL を保持するためには、次の属性を削除する必要があります。

- weekcal 内の format="optimize" と showbusylist=""
- monthcal と componentlist 内の showbusylist=""

ユーザの XSL では、これらの属性が生成する XML の取り扱い方法が認識されません。

XSL の変更では、Calendar Server 5.1 リリースでの操作性に関するフィードバックを受けて、ユーザインタフェースの外見と操作が修正されています。特に、「新しいイベント」、「新しい仕事」、「新しいグループ」、「ユーザ検索」、および「定期的イベントまたは仕事」ダイアログが大幅に変わっています。また、「週別」と「月別」の表示が、パフォーマンス向上のために最適化されました。

XSL ファイルの大部分が変更されましたが、大幅に改良されたのは、new\_event.xml、new\_task.xml、new\_group.xml、search\_for\_calendars\_common.xml、search\_for\_cals.xml、weekview.xml、monthview.xml、および i18n.xml です。

## ローカリゼーション用の i18n.xml ファイル内の変数

XSL ファイルで表示可能なテキスト文字列は、ローカリゼーションプロセスを簡単にするために変数に変換され、各言語に関連する i18n.xml ファイルにあります (バグ ID 4537676)。XSL ファイルは次のディレクトリにインストールされます。

`server-root/cal/bin/data/language`

`language` で特定の言語コードを識別します。

ユーザ側で必要な i18n.xml ファイルをローカライズできます。i18n.xml ファイルには、ローカライズされていない XSL ファイルで参照されるテキスト文字列とともに、ローカライズされた `date_format.xml` で使用されるテキスト文字列もあります。形式やレイアウトが英語と異なる言語に限り、`date_format.xml` のローカライズが必要になります。

## cstool ユーティリティから Ping ENS への改良

cstool ユーティリティにより、ローカルまたはリモートサーバで稼働中のイベント通知サービス (ENS) サービス (enpd プロセス) を ping することができます。次のコマンドでは、ics.conf ファイル内の `local.hostname` パラメータによって決められた ENS サーバを ping することができます。

```
./cstool ping ens
```

また、リモートサーバで稼働中の ENS サービスを ping するには、次のオプションも使用できます。

- `-h host` は ENS サービスを稼働中のリモートサーバのホスト名を指定する
- `-p port` は ENS サービスへのポートを指定する

cstool システム要件とその他のオプションについての説明は、『Calendar Server 管理者ガイド』を参照してください。

## ENS メッセージ通知の改良

ENS メッセージ通知では次の改良が実施されています。

- 一定の WCAP コマンドを使用して Calendar Server にアクセスするクライアントと Web サービスは、その後の ENS 通知メッセージで指定されるコマンドのソースを持つ

詳細は「ENS 通知の新しい WCAP パラメータと X-Token」を参照

- イベント通知の変更では、それぞれのトランザクションに特定の項目を発行して、イベントに対する応答、更新、変更を区別できる。これにより、通知をトリガーしたトランザクションの種類を通知を受ける側で知ることができる

詳細は「ENS 通知用の新しい ics.conf パラメータ」を参照

これらの機能に関する問題については、次を参照してください。

- `cscomponents delete` が ENS 通知をトリガーしない (4725163)
- `import.wcap` が ENS 通知をトリガーしない (4729674)

### ENS 通知の新しい WCAP パラメータと X-Token

新しいオプションの実行時アプリケーション ID (`appid`) パラメータでは、一定の WCAP コマンドに、その次の ENS メッセージの X-Token で指定されるコマンドのソースを設定できます。`appid` パラメータは、次の WCAP コマンドが受け入れるユーザ使用の文字列です。

- `storeevents` および `storetodos`
- `deleteevents_by_id` および `deletetodos_by_id`
- `deletecomponents_by_range`、`deleteevents_by_range`、および `deletetodos_by_range` – ENS 通知では実装されていない
- `import` – ENS 通知では実装されていない。詳細は「`import.wcap` が ENS 通知をトリガーしない (4729674)」を参照

**注:** `appid` パラメータは実行時の値であり、データベースには保存されません。そのため、WCAP の出力またはエクスポートされたどのイベントも X-Token を定義しません。

ENS 通知用の新しい X-Token は、X-NSCP-COMPONENT\_SOURCE および X-NSCP-TRIGGERED-BY です。

- X-NSCP-COMPONENT\_SOURCE は、要求の起点を指定する。`appid` が前述の WCAP コマンドのどれかに含まれている場合は、X-NSCP-COMPONENT\_SOURCE に `appid` 文字列が含まれる

`appid` が WCAP コマンドに含まれない場合、または要求の起点が Calendar Express または Calendar Server 管理ユーティリティの場合は、X-NSCP-COMPONENT\_SOURCE は次の値のどれかをとります。

- CALENDAR EXPRESS - 要求の起点は現行の Calendar Express の UI

- ADMIN - 要求の起点は Calendar Server 管理ユーティリティ。まだ実装されていない
- WCAP - `appid` が WCAP コマンドで指定されていない
- CAP - 要求の起点が CAP インタフェース (将来の使用のために確保)
- X-NSCP-TRIGGERED-BY は通知をトリガした開催者と出席者のユーザ ID を指定する  
詳細については『Sun ONE Calendar Server プログラマーズガイド』を参照してください。

### ENS 通知用の新しい `ics.conf` パラメータ

ENS 通知のイベントに対する応答、更新、または変更を区別するために、Calendar Server は次の表で説明する新しい構成パラメータを備えています。この改良を使用するには、`caldb.berkeleydb.ensmsg.advancedtopics` パラメータが「yes」でなければなりません。

**表 1** ENS メッセージ通知用の新しい `ics.conf` パラメータ

パラメータ名	説明
<code>caldb.berkeleydb.ensmsg.advancedtopics</code>	<p>変更イベント通知が発行される方法を次のどちらかに指定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「yes」 - 変更イベント通知は、次の関連トピックに発行することにより、トランザクションの応答、更新、または修正と区別される。 <code>caldb.berkeleydb.ensmsg.replyevent</code>、 <code>caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshevent</code>、または <code>caldb.berkeleydb.ensmsg.modifyevent</code></li> <li>● 「no」 - 変更イベント通知は、トランザクションが応答、更新、または修正であるかにかかわらず、 <code>caldb.berkeleydb.ensmsg.modifyevent</code> トピックに発行される。</li> </ul> <p>デフォルトは「no」で、Calendar Server 5.1 リリースの動作と同じ。</p>
<code>caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshevent</code>	<p>イベントが更新されたときに Calendar Server が ENS メッセージを作成するかどうかを「yes」または「no」で指定する。</p> <p>デフォルトは「no」</p>
<code>caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshevent.contenttype</code>	<p>イベント更新用のメッセージデータのコンテンツタイプを指定する。 値は「text/xml」または「text/calendar」</p> <p>デフォルトは「text/xml」</p>
<code>caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshevent.url</code>	<p>イベント更新用の ENS メッセージの URL を指定する。デフォルトは「<code>enp:///ics/caleventrefresh</code>」</p>
<code>caldb.berkeleydb.ensmsg.replyevent</code>	<p>Calendar Server がイベントに応答する ENS メッセージを作成するかどうかを「yes」または「no」で指定する。デフォルトは「no」</p>

**表 1** ENS メッセージ通知用の新しい ics.conf パラメータ

パラメータ名	説明
caldb.berkeleydb.ensmsg.replyevent.contenttype	イベント応答用のメッセージデータのコンテンツタイプを指定する。 値は「text/xml」または「text/calendar」 デフォルトは「text/xml」
caldb.berkeleydb.ensmsg.replyevent.url	イベント応答用の ENS メッセージの URL を指定する。 デフォルトは「enp:///ics/caleventreply」

詳細については、『Sun ONE Messaging and Collaboration イベント通知サービスマニュアル』を参照してください。

#### 今後の使用のために ENS 通知に確保された ics.conf パラメータ

ics.conf は次の新しい構成パラメータも備えています。しかし、これらのパラメータは今後のために確保されたものであり、現行のリリースでは使用されていません。

- caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshtodo
- caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshtodo.contenttype
- caldb.berkeleydb.ensmsg.refreshtodo.url
- caldb.berkeleydb.ensmsg.replytodo
- caldb.berkeleydb.ensmsg.replytodo.contenttype
- caldb.berkeleydb.ensmsg.replytodo.url

## 「イベントについて連絡する人」オプション用の新しい構成パラメータ

このリリースでは、Calendar Express の「イベントについて連絡する人」オプションが、ics.conf ファイル内の次のパラメータにより設定できるようになりました。

```
ui.eventdialog.inform.enable = "no"
```

デフォルトでは、このパラメータは「no」に設定されています。Calendar Express のユーザがイベントの作成または編集を行ったときに、Calendar Express で「イベントについて連絡する人」オプションを表示するには、このパラメータを「yes」に設定します。

## ロックの場所、プロセス ID、カウンタファイル用の新しい構成パラメータ

ロックの場所、プロセス ID (PID)、およびカウンタファイルを設定するには、次の新しい `ics.conf` パラメータを使用します。

- `local.instance.lockdir.path` はこのサーバインスタンス用のロックファイルを保存する場所を指定する。デフォルトは `server-root/cal/bin/lock` ディレクトリ
- `local.instance.pidfile.path` はこのサーバインスタンス用の PID ファイルを保存する場所を指定する。デフォルトは `server-root/cal/bin/config` ディレクトリ
- `local.instance.counter.path` はこのサーバインスタンス用のカウンタファイルを保存する場所を指定する。デフォルトは `server-root/cal/bin/counter` ディレクトリ

## セッションデータベース用のメモリベースのファイルシステム

Solaris システムでのパフォーマンスを良くするには、新しい `ics.conf` パラメータを `local.instance.use.tmpfs` から「true」に変更すると、セッションデータベース用にメモリベースのファイル (`tmpfs`) を設定することができます。 `tmpfs` ファイルシステムは、次に `service.http.sessiondir.path` および `service.admin.sessiondir.path` パラメータの値に基づいてオーバーレイされます。

詳細については、Solaris の製品マニュアルで `tmpfs (7FS)` および `mount_tmpfs (1M)` マニュアルページを参照してください。

## local.ugldapicsextendeduserprefs パラメータの改訂

ics.conf ファイル内の local.ugldapicsextendeduserprefs パラメータには、次の新しい設定があります。

- ceExcludeSatSun は「週の最初の日」オプションを「週間および月間ビューから土曜日と日曜日を除外する」にチェックしたかどうかを示す
- ceGroupInviteAll は「グループ出席依頼」オプションで「カレンダーグループの表示中にイベントを作成するとき、グループ内のすべてのカレンダーに出席を依頼する」にチェックしたかどうかを示す

## storeevents および storetodos WCAP コマンド内のデフォルトタイムゾーン

Calendar Server 5.1.1 20020924 ホットフィックスで開始すると、storeevents および storetodos WCAP コマンドでは、新しいイベントや todo (仕事) について出席依頼の発送および確認の電子メールメッセージを作成するときに、デフォルトの Calendar Server タイムゾーンを使用します。

このホットフィックス以前のリリースでは、tzid パラメータが消去されると、storeevents および storetodos コマンドは出席依頼や確認の電子メールメッセージを作成するときの開始時や終了時に GMT を使用します。詳細については、バグ ID 4730931 を参照してください。

# Calendar Server 5.1.1 の修正済みの問題

Calendar Server 5.1.1 リリースで修正された問題は、次のカテゴリに分けられます。

- インストール関連の問題の修正
- クライアントおよびユーザインタフェース (UI) の問題の修正
- Calendar Server で修正されたその他の問題 ( 管理、認証、CLD、コア、CSAPI、データベース、DWP、および WCAP )
- 国際化 (i18n) および ローカリゼーション (l10n) で修正された問題

## インストール関連の問題の修正

表 2 は、Calendar Server 5.1.1 リリースで修正されたインストール関連の問題の一覧です。

**表 2** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正された問題

バグ ID	説明
4535979	DWP サーバに CPU バインディングがない
4539473	ローカライズされたリソースを分離する必要がある
4547424	分離パッチチェックをローカリゼーションコンポーネントごとにトリガーする必要がある
4632993	CLD キャッシュディレクトリがない場合に Calendar Server の起動に失敗する
4639133	2.8+ 推奨パッチクラスタのパッチチェック時にインストールに失敗する
4643403	スキーマファイル 60iplanet-calendar.ldif が iDS 5.1 サーバにインストールされていない
4647093	LDAP サーバを 5.x より前のリリースで使用すると、インストールプログラムがスキーマを更新しない
4652210	Calendar Express のログインページに文字の誤りがある
4658713	インストール時に java.lang.NumberFormatException が発生する
4660238	ドイツ語版の Windows NT 上でのインストール後に start-cal コマンドが動作しない
4660649	インストールプログラムがパッチの確認エラーを戻す
4677135	パラメータ (service.calendarsearch.ldap) を有効にする LDAP カレンダー検索にサポートが追加された

**表 2** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正された問題 ( 続き )

<b>バグ ID</b>	<b>説明</b>
4682241	インストールプログラムの商標を iPlanet から Sun ONE に変更する
4684117	インストール時にデバッグメッセージが表示される
4692215	インストール時に "Sun-Netscape Alliance" が表示されたままである
4697660	LDAP サーバで 60iplanet-calendar.ldif ファイルが更新されていない
4705812	LDAP サーバを更新した直後でも、インストールプログラムがプロンプトで LDAP スキーマの更新を要求する
4708693	「カスタマイズ可能ファイルを保存」で、「同じディレクトリにファイルを保存」オプションを削除する
4713634	インストールサポートがローカライズ可能なリソースのフレキシブルパッケージや配布に追加された
4716493	インストールプログラムの中国語パッケージに zh_TW を追加
4717726	インストールプログラムはオブジェクトクラスと OID で Calendar Server LDAP スキーマを検証する必要がある
4718383	インストールプログラムが完了時に例外を表示する
4719552	Netscape Directory Server 4.12 上でスキーマを更新するときに、インストールプログラムで問題が発生する
4722618	日本版リリースで、アップグレード後に「仕事」が喪失する
4723725	中国語と日本語パッケージが EMEA リリースでインストールされる
4728040	HP-UX インストールプログラムがパッチ検証メッセージを削除する必要がある
4737773	インストールプログラムで LDAP サーバ上の Calendar Server スキーマファイルを更新できない

## クライアントおよびユーザインタフェース (UI) の問題の修正

表 3 は、Calendar Server 5.1.1 リリースで修正されたクライアントおよび Calendar Express の UI の問題の一覧です。

**表 3** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたクライアントおよび UI の問題

バグ ID	説明
4523759	繰り返しイベントの週間ビューに午前 1 時の列が 2 つ表示される
4525153	カレンダーが削除されたときビューが更新されない
4525578	(+) アイコンがグループの概要で新しいイベントを不正な時間に設定する
4527844	「空き時間」の表示画面に修正が必要
4529246	Windows NT 上の Internet Explorer を使用してカレンダーの購読を行うと、カレンダーが消える
4531420	UI で新しいイベントや仕事の画面数やキー入力を減らす必要がある
4532448	「連絡」機能を削除する
4535964	カレンダーのプライバシー設定で 76 を超えるユーザをシステムが受け付けられない
4536079	「比較ビュー」で異なるタイムゾーンを設定したカレンダーに問題が生じる
4536084	「空き時間の表示」アクセス権がエンドユーザにわかりにくい
4536209	カレンダーの名前が長いと「概要」のタブで問題が発生する
4536318	グループ比較ビューで (+) アイコンを使用して作成したイベントが矛盾したデータを表示する
4536682	カレンダーの購読を解除すると Javascript エラーが発生する
4537243	「グループビュー」でイベントを作成すると失敗する
4537326	「読み込み」権をオンにして「空き時間」権をオンにしないと、ユーザの空き時間の表示に問題が発生する
4537333	ユーザが購読カレンダーを編集する権限がない場合に「プロパティの編集」リンクが無効になる
4537462	Calendar Express UI の「定期的イベントと仕事」ダイアログのデザインを変更する (RFE)
4537464	Calendar Express UI のミニカレンダーのデザインを変更する (RFE)
4537466	デフォルトのプライバシー設定は「なし」ではなく「空き時間」でなければならない
4537470	購読のデザインを変更する (RFE)
4537475	「イベントの作成」ウィンドウのデザインが変更される

**表 3** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたクライアントおよび UI の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4537479	「空き時間の作成」でカラーコードの凡例を表示する
4537630	「比較ビュー」でイベントが拒否されるとカレンダーにエラーが発生する
4537631	新しいカレンダーを作成するときに「プライバシー」タブが正しく生成されない
4537640	読み取り専用カレンダーを表示するときは、イベントから「OK」ボタンが削除されている必要がある
4537642	「比較ビュー」で新しいイベントを作成する (+) アイコンが出席者を事前に読み込まない
4537676	XSL ファイルの文字列は分離可能にする必要がある
4538370	グループにイベントの出席依頼を出す方法がない
4538470	グループを表示するときに「仕事」ボックスにはユーザの ACL に対する蓄積だけ表示する必要がある
4538603	表示専用モードではユーザが出席依頼を受けることはできない
4538651	(+) アイコンを使用してグループビューでイベントをスケジュール設定する場合、グループ内のすべてのカレンダーに出席依頼を出す必要がある
4538697	Netscape Navigator 6 を使用すると週間ビューを表示できない
4538836	「終了日を指定しない」を選択してもイベントが毎日繰り返されると数ヶ月で終了してしまう
4538863	「空き時間」権と ACL のスケジュール設定を同時に行うとカレンダーが表示されなくなる
4539070	Calendar Express UI で出席依頼リストに記入するとき、自動完成またはヘルプを提供する (RFE)
4539123	「繰り返し」ダイアログで「繰り返しオン」のラジオボタンの値が選択済みになっている
4540121	購読カレンダーの順序の定義をユーザに許可する (RFE)
4541309	DST クロス (つまり 10/28/00 ~ 10/29/00) にわたる繰り返しイベントが「週別ビュー」で正しく表示されない
4546803	カレンダーを選択してイベントを保存するときにイベント出席者が消える
4549023	情報を入力したときに画面の最初のフィールドでカーソルをアクティブにする必要がある
4554327	カレンダービューから土曜日と日曜日を削除する機能が必要 (RFE)
4554511	出席予定者を検索するときは、UI を検索ウィンドウに表示させておく必要がある (RFE)
4554783	「月別」ビューで、ユーザがオプションを変更するとカレンダービューがデフォルトの「概要」に戻る
4561534	カレンダー自体のタイムゾーンを使用して表示すると、日付が正しく表示されない場合がある
4607517	「カレンダー」ページで作成したカレンダーが表示されない

表 3 Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたクライアントおよび UI の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4611668	アイコンの日本語メッセージが他のアイコンと重なる。また、長文テキストがアイコンの下で重なる
4614155	カレンダーの所有者以外のユーザは、「週別」ビューで極秘 ( 日時のみ ) の終日イベントを正しく見ることができない
4615573	カレンダーの名前が長いとリストボックスに問題が発生する
4616786	各カレンダーの購読を行わずに、ユーザがグループカレンダーを作成する必要がある (RFE)
4619466	「グループビュー」に重複したイベントが表示される
4620857	仕事のタイトル、場所、説明が長いものでも表示させる必要がある
4624733	タイムゾーンを変更すると、イベントの時間が 1970 年 1 月 1 日に変わる
4625255	1970 年以前にすると Calendar Server が停止する
4627545	service.http.renderhtml = no の場合でも、HTML が「イベント概要」ページ上に表示される
4628776	繰り返しイベントの「終了日を指定しない」がわかりにくい (RFE)
4628979	週別や月別でグループを表示すると、1 つの仕事に calid が 2 回表示される
4635058	「リソース」アイコンと「グループ」アイコンが検索ページに表示されない
4637661	「週別」ビューに表示されないイベントがある
4637667	週別ビューで終日イベントのクイック削除アイコン (X) が表示されない
4637758	期限、日時および時間以外のフィールドにアクセスできなくなる
4638237	「カレンダーグループの編集」に「タイムゾーン」ボタンが表示されない
4638304	5 日間表示で (+) アイコンをクリックすると、間違った日付がデフォルト設定される
4638468	終日イベントを「終了日を指定しない」で作成すると、「週別」ビューで正しく表示されない
4638539	平日設定が「月別」ビューに表示されない
4640619	検索操作はもっと簡単に行える必要がある (RFE)
4643123	「日付に移動」や「クイックジャンプ」の機能を使用するときでも、2 月 29 日 (2/29/2004) については日付を入力しなければならない
4644008	2037 年以降にするとカレンダーが停止する
4645213	「日付に移動」で Javascript エラーが発生する
4646966	csimport ユーティリティを、繰り返しイベントの大きなリストに使用できない
4647878	グループの一部のデフォルト以外のカレンダーで、削除のショートカットアイコンが使用できない
4647910	週間ビューで午後 11 時に開始する 1 時間のイベントがうまく表示されない

**表 3** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたクライアントおよび UI の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4647913	クイック削除 (X) アイコンを使用してイベントまたは仕事を削除すると、「True」とだけ表示される画面が表れる
4647913	Windows NT 上でクイック削除 (X) アイコンを使用してイベントまたは仕事を削除すると、UI がうまく表示変更されない
4649440	「繰り返しのパターンの変更」リンクのスペースを削除する必要がある
4651407	Calendar Express UI でフォントサイズの設定を反映できないことがある
4652100	Calendar Express UI で月をまたがるイベントを追加できない
4653332	繰り返しイベントのすべてのインスタンスに応答できない (RFE)
4655357	オーストラリア / シドニータイムゾーンで、「週別」ビューからのイベントエントリにトラブルが発生する
4655683	Internet Explorer 5.5 から定期的イベントを変更できない
4656649	リソースカレンダーの「出席依頼」および「クイック出席依頼」にエラーが発生する
4658530	カレンダー検索のプルダウンメニューに「----????----」と表示される
4663651	プルダウンメニューから他のユーザのカレンダーを選択するとトラブルが発生する
4666006	週間ビューで週の最初の日の DST が重複し、時間ブロックが間違っ表示される
4666816	「アクション項目」に明日以降に予定された仕事が表示されない
4667168	期限切れの仕事の概要を表示すると、余白が表示される
4670563	検索結果から仕事を削除しようとする、検索ページに何も表示されないままになる
4671110	ユーザ ID が calid と異なる場合、Calendar Server で新しい仕事を作成できない
4672463	すべてのダイアログのオンラインヘルプへのリンクが正しくない
4673939	Calendar Express の概要で、「期限」のスペースが期限前に表示されない
4675036	毎日繰り返されるイベントを掲示できない場合がある
4675040	グループから作成されたイベントが、出席者の共通名を持たない
4678095	Calendar Express の印刷可能なビューで「今日:(日付)」の「:」が抜けている
4679428	「日別」ビューから「週別」ビューに切り替えると、カレンダーが前週の表示になる
4689281	「削除」権を持っていても他のユーザの仕事削除できない
4689389	特定の時間にアラームを設定できない
4697811	新しいイベントの「空き時間」タブに、カレンダー ID が表示されない
4698613	カレンダーの購読を解除し、ビューを更新してもカレンダーが再度表示される
4699105	匿名アクセス用のプルダウンメニューに、カレンダー ID が表示されない

**表 3** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたクライアントおよび UI の問題 ( 続き )

<b>バグ ID</b>	<b>説明</b>
4703618	グループビューのイベントまたは仕事をクリックしたとき、グループ名にスペースが入っていると「Bad Request」が戻される
4708856	ドイツ語環境での Netscape 6 で使用すると、期限切れのイベントがうまく表示されない
4712372	仕事の「繰り返しのパターン」を変更するとループして日付を変更する
4723198	日付や時間が設定されていない仕事で、Calendar Express 上の JavaScript ダイアログボックスがループする

## Calendar Server で修正されたその他の問題

表 4 は、Calendar Server 5.1.1 リリースで修正された、管理、認証、カレンダー検索データベース (CLD)、コア、CSAPI、データベース、DWP、および WCAP に関連する問題の一覧です。

**表 4** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたその他の問題

バグ ID	説明
4523805	複数の日ごとの仕事を正しく作成できない
4524444	csuser でユーザを作成するときに共通名が使用されない
4524882	csstart ユーティリティで ENPD プロセスを開始するときにトラブルが発生する
4525736	Calendar Server 5.0 パッチ 4 で、必要な数の繰り返しイベントを追加できない
4527368	有効になっていないユーザにユーティリティを実行すると、そのユーザはユーティリティからしか有効にできない
4527479	非直列化中にフロントエンド cshttpd プロセスに「予期せぬ問題」が発生する
4532688	dtstart/dtend/due の異なる時間の文字列が store コマンドで返される
4535365	WCAP: パラメータは最大 1000 文字
4535785	maxResults フィールドがすべての WCAP 要求で取り消される
4535992	出席者フィールドから、WCAP を使用して電子メールアドレスを更新または削除できない
4536179	カレンダーの購読を解除できない
4536390	アジア / テヘランタイムゾーンが「オプション」の「設定」画面に表示されない
4537239	作成済みの繰り返しイベントを変更すると、イベントの「終日」ステータスが変わる
4537470	「購読」ダイアログの画面デザインを変更する必要がある (RFE)
4537871	カレンダー ID (calid) の長いカレンダーを削除しようとする、cshttpd プロセスに問題が発生する
4538274	「カレンダーのグループへの追加」では、一度にひとつのカレンダーしか追加できない
4538842	「検索」をクリックしてもメッセージが返されない
4539252	csbackup ユーティリティが「Backup failed」エラーを返した
4541388	33 文字より長い UID を使用すると、cshttpd プロセスが CPU を 100% 使用する
4555881	「仕事リスト」ウィンドウに完了した仕事が表示されない場合がある
4555984	「仕事名」の意味のない文字列が入力フィールドの外に生成される
4556258	実在しないカレンダーを開くと、「unknown errors」と表示される
4620227	DWP サーバにプロセスサバイディングを追加する

表 4 Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたその他の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4621169	Calendar Server パフォーマンスが非常に遅い
4621206	cscal -v list <i>calendar-name</i> コマンドでカレンダーのタイムゾーンを表示できない
4621310	ics.conf ファイルを整理する必要がある
4621972	終日イベントのデフォルトのアラーム時間を設定できない
4624162	グループの「週別」ビューで、(+) アイコンを使用して終日イベントを作成できない
4625814	csexport ユーティリティが 2 つのカレンダーで失敗する
4626663	出席依頼行にセミコロンで区切ってアドレスを 2 つ入れると、cshttpd プロセスが停止する
4627382	cshttpd プロセスが理由もなく停止する
4627561	ENS がメッセージを削除したことを示す「cancel-completed」メッセージを送らない
4628734	メッセージが chcncpt.htm ファイルで省略されている
4629321	WCAP fetch 要求に問題が発生するタイムゾーンがある
4629838	Windows 上で新しいイベントに無効な日付を指定すると、永久にループする
4635055	出席依頼では他のユーザを特定できるが、カレンダーを購読するときには特定できない
4636568	SunRay 上の Netscape Communicator 4.7x から Calendar Server 5.x にアクセスすると、クライアントは使用できなくなる
4636951	cshttpd プロセスに「予期せぬ問題」が発生する
4637024	WCAP fetchcomponents_by_range が、タイムレンジに関係なくすべての仕事を返す
4638240	LDAP CLD バックエンドサーバがダウンすると、ログイン認証に失敗したと報告される
4640107	cshttpd プロセスの UI 自動カレンダー作成テストに「予期せぬ問題」が発生する
4641883	SunIT ビルドで「予期せぬ問題」が発生した
4641935	カレンダーデータベースのトラブルにより csadmin が停止する
4642573	csadmind の問題が発生し、システムが頻繁にダウンする
4643085	WCAP コマンドでカレンダーを削除できず、エラー 11 が返される
4643237	カレンダーにユーザを作成すると、サーバがハングし、「予期せぬ問題」が発生する
4643301	SunIT ビルドで「予期せぬ問題」が発生する
4643758	無効のセッション ID を持つ WCAP change_password.wcap コマンドが、cshttpd プロセスを停止させる
4643763	csuser を使用して新しいユーザを作成すると、LDAP エラー 65 が返される
4643766	cscal の変更により、ACE のデフォルト値に一貫性がなくなり、間違った値になる

表 4 Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたその他の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4645160	定期的イベント作成中に「終了日」が機能しない
4645423	ユーザの終了時間を過ぎた仕事が、「週別」ビューに表示されない
4648260	インストール時に Sun   Netscape Alliance のイメージが有効になったままである
4648639	年の上限 (2038) という意味のないエラーメッセージ
4649358	壊れた HTML コードが chncpt.htm ファイルに存在する
4649365	壊れた HTML コードが chopts.htm ファイルに存在する
4649401	不要なリンクが chfaq.htm ファイルに存在する
4649729	cscal ユーティリティが存在しないカレンダーを削除したと報告する
4649739	Calendar Server ユーザが所有するカレンダー以外の日付を表示しなくなる
4650013	calid が正規表現と一致しないと、カレンダーがローカルで作成される
4651445	アクセスレイヤ ( フロントエンド ) のカレンダーホストにアクセスするために、複数のスピン ドルが必要になる
4653106	グループ表示のカレンダーが自動的に出席予定者リストに含まれる
4653887	セッションデータベースのデフォルトが /opt ディレクトリになる
4654196	cscal ユーティリティが、システムや Calendar Server タイムゾーンを報告しない、または使用 しない
4654983	cstool ユーティリティが Ping ENS プロセスを実行できるように改良する (RFE)
4655675	cshttpd プロセスが停止し、ログインできない
4660217	ics2migrate ユーティリティが、2002 年 3 月 28 日以降の 5.1.1 インストールで実行できない
4663318	パッチを更新すると、WCAP deleteevents_by_id で異なる ENS 応答を起動する
4663383	Calendar Express オンラインヘルプの chchcpt.htm ファイルのリンクがない
4663383	chchcpt.htm ファイルのリンクがない
4663997	ユーザが出席者でない出席依頼を削除すると、HTTP に予期せぬ問題が発生する
4665399	csuser で新しいユーザにデフォルトカレンダーを作成すると、間違った ACL が設定される
4665503	GSE 関連の WCAP 出力で、出席者 CN 情報が消失する
4666576	ゼロを 5 つ以上含むユーザ ID で 2 度ログインすると、Calendar Server がハングする
4666976	cscomponents ユーティリティが指定範囲を超えたイベントを一覧表示する
4667881	主催者が重要でないフィールドを変更すると、出席者応答ステータスがリセットされる
4667883	イベント用の GSE コンポーネントの状態に異常が生じる

表 4 Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたその他の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4669024	cshttpd プロセスのいくつかが停止し、「予期せぬ問題」が発生する
4670288	管理者ガイドで、HTML 表示の説明に訂正が必要である
4670288	HTML 表示のサポートに関して、マニュアルを修正する必要がある
4670997	新しい LDAP およびローカルドメインのリファレンスに合わせて、ics.conf file ファイルを更新する必要がある
4673465	共通の名前を使用すると、購読リストでカレンダーを検索できない
4674271	GSE のパフォーマンスの不良 - イベントを読み込むたびにカレンダー全体が列挙される
4674277	不正な GSE エラーメッセージが admin.log に存在する
4674278	2001 年 10 月 22 日にチェックインしたために、GSE WBT に問題が発生した
4675630	csadmind プロセスが停止し、再起動しない
4675988	起動するたびに、csadmind プロセスに「予期せぬ問題」が発生する
4676777	WCAP で終日イベントを終日でないイベントに変更できない
4679172	デバッグツリーで delete_repeat_daily_event を実行すると、アサーションエラーが発生する
4684180	HP-UX 上で未解決の userattr_init() シンボルのために、start-cal が失敗する
4686017	最新のスキーマで LDAP サーバを更新しないと、cscal に「予期せぬ問題」が発生する
4686102	LDAP error 2: cscal を使用してカレンダーを削除すると、プロトコルエラーが発生する
4687350	テストケース func_calprops_edge.1.1.49 により、cshttpd が停止する
4689991	Calendar Server が WCAP テスト中にカレンダーの表示名を上書きする
4690246	csuser で新しいユーザを作成するときに新しい icsSubscribed 形式に従わない
4691494	無効のパスワードで Calendar Express にログインすると、エラーコード -278701188 が返される
4691595	最初にログインしたときに icsCalendar 属性が LDAP サーバに追加されない
4691611	主催者が出席依頼を再度送信すると、出席者のアラームが消失する
4693255	service.httpd.commandlog パラメータが機能テスト func_events_edge の際、cshttpd を停止する
4695060	複数の cshttpd プロセスにトラブルが発生し、出席依頼の処理が滞り、データベースエラーが発生する
4695454	HP-UX 上で管理者が csuser ユーティリティを使用して、コマンド行から新しいユーザを作成できない
4695864	csuser ユーティリティでリセットされたユーザ用にカレンダーを作成できない

表 4 Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたその他の問題 ( 続き )

バグ ID	説明
4695872	csuser enable コマンドで新しい icsSubscribed 形式を使用できない
4696278	csimport コマンドがセグメント障害を引き起こす
4696545	表示属性を変更すると、週定義属性が変更される
4698242	アポストロフィ (') を使用すると、イベントの詳細に &# が付加される
4700764	cscal reset コマンドの実装が必要 (RFE)
4701752	Netscape Calendar Server から iCS へ移行したときに、chttpd プロセスに「予期せぬ問題」が発生する
4703453	「クイック削除」アイコンをクリックすると画面が分割されるが、イベントは削除されない
4703471	一貫して軽いロード環境を継続するとメモリがリークする
4704290	csexport ユーティリティで終日イベントの日付を正常にエクスポートできない
4706624	Sun ONE ログがすべてのヘルプファイルに表示されない
4706706	get_userprefs 応答に icsCalendarOwned と icsDwpHost エントリが含まれない
4707334	LDAP CLD プラグインでは、別の BE サーバからカレンダーを作成するのを許可するべきではない
4708620	ics.conf が正しくない設定で始動すると、フロントエンド cshhttpd プロセスが停止する
4709903	csuser enable コマンドで LDAP CLD 設定に icsDWPHost を復元する必要がある
4709912	uid が csresource コマンドで LDAP に移行されない
4711312	Calendar Server をログアウトすると非標準ヘッダーが生成され、Portal Server に問題が発生する
4714385	メモリがリークしたために、Calendar Server HTTPD プロセスが停止する
4714385	内部サーバ (バージョン 5.1.1 EA build 20020424) で httpd が停止する
4714472	冗長モード以外では、csresource により icsDWPHost 属性が一覧表示される
4715265	-h オプションがローカルホストと異なるホスト名を持つ場合は、csuser/csresource は作成を許可するべきではない
4715269	Calendar Server を停止しようとする、stop-cal および csstop ユーティリティがハングする
4717492	時間設定されていない仕事に「期限切れ」と表示される
4717497	「週別」ビュー上の「新しいイベント」の日付表示が 1970 年 1 月 1 日になる
4717499	メニューに移ってからビューに戻ると、デフォルトの初期表示が失われる
4719292	Windows NT 上で HTTP を停止すると、エラー 2186 が発生し、プロセスの 1 つが停止する
4722970	Windows NT 上で、csadmin および cshhttpd プロセスが起動後すぐに停止する

**表 4** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正されたその他の問題 ( 続き )

<b>バグ ID</b>	<b>説明</b>
4724701	Calendar Server 5.1 の cshttpd に「予期せぬ問題」が発生する
4731941	HP-UX 上で CLD が設定されているとき、start-cal で未解決のシンボルメッセージが表示される

## 国際化 (i18n) および ローカリゼーション (l10n) で修正された問題

表 5 は、Calendar Server 5.1.1 リリースで修正された国際化 (i18n) とローカリゼーション (l10n) 関連の問題の一覧です。

**表 5** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正された国際化 (i18n) とローカリゼーション (l10n) 関連の問題

バグ ID	説明
4525651	国際文字を含む仕事またはイベントの件名が空欄になる
4526702	出席者へのイベントアラームとなる、追加情報を持つ電子メールメッセージがローカライズされた
4528645	イベント要求の電子メールメッセージの件名が表示されず、本文が文字化けする
4546813	簡体中国語ロケールで正常に表示されないメッセージの文字列がローカライズされた
4628091	ローカリゼーションプロパティのリソースファイルがインストールできない
4645223	日本語版で cshttpd プロセスが停止する
4658253	default_user_prefs.xml ファイルで英語以外のセクションが表示されない
4658714	「表示」、「カレンダー」、「グループ」および「オプション」が国際化されていない
4659396	カレンダーグループの編集ダイアログで「OK」ボタンが国際化されていない
4659397	北米、南米、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、太平洋地域は国際化されていない
4659412	通知電子メールメッセージのヘッダーがローカライズ版では英語表示される
4659435	ユーザ名と所有者名が国際化されていない
4660369	ドイツ語版のデフォルトの i18n.xml ファイルに問題がある
4660680	ダイアログで使用するイベントの時間文字列が国際化されていない
4661209	カレンダータブの多くの句読文字が i18n.xml ファイルに移行された
4661212	「カレンダー検索」ダイアログ内の「購読」が国際化されていない
4661213	「カレンダー」タブ内の「編集」が国際化されていない
4661217	「カレンダーグループ」内の句読文字がローカライズされていない
4662005	「オプション」パネル内の句読文字と文字列がローカライズされていない
4662008	「新しいイベント」内の句読文字と文字列がローカライズされていない
4662019	「仕事リスト」ウィンドウ内の UI で「 <i>lastname</i> のカレンダー」が使用できない
4662020	「仕事リスト」ウィンドウ内の句読文字が国際化されていない

**表 5** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正された国際化 (i18n) とローカライゼーション (l10n) 関連の問題 (続き)

バグ ID	説明
4662021	ホームパネル内の句読文字が国際化されていない
4662024	「ようこそ <i>first-name last-name</i> 」の順序が正しくない国がある
4662025	「印刷可」ウィンドウ内の文字列と句読文字がローカライズされていない
4662039	「ユーザの検索」ウィンドウ内の文字列と句読文字がローカライズされていない
4663395	「Calendar Express の表示」ダイアログでカラースキーマを最後の選択肢に変更できない
4664877	アラームの形式が国際化されていない
4664894	「イベントの編集」ダイアログの一部が表示されない
4664900	ビュー形式の日付書式が国際化されていない
4665418	繰り返し書式の繰り返しパターンが国際化されていない
4665500	タイムゾーンの形式が国際化されていない
4665580	エクスポート形式の日付範囲が国際化されていない
4665582	インポート形式の日付範囲が国際化されていない
4665606	「カレンダー検索」の検索インタフェースが国際化されていない
4665994	ローカライズ可能な文字列が i18n XSL ファイルに追加されていない
4666399	メッセージを正しくローカライズするには、データディレクトリで XSL ファイルを編集する必要がある
4667128	「Do you want to delete this task/event?」メッセージが国際化されていない
4670561	検索結果ダイアログ内の句読文字が国際化されていない
4670596	変母音を含む電子メールメッセージが正しくフォーマットされていない
4671741	アクセント記号付き文字を使用すると、ENS 電子メールメッセージが正常に表示されない
4671743	ローカライズされたビルドでの (+) アイコンツールのヒントが、「日別」ビューに表示されない
4671773	日本語版で午後のイベントの時間が表示されない
4673973	マルチパートメッセージを持つ UI の複数の箇所が適切にローカライズされていない
4675330	Calendar Express の「定期的な予定の設定」ダイアログで、イベントが翻訳されない
4689269	Calendar Express で、「繰り返し」と「繰り返しのパターン」の間にスペースが必要
4689284	アクセント付き文字を使用すると、イベント通知電子メールが正常に表示されない
4690759	ローカライズされていない XSL ファイルに、英文テキストまたは句読文字が表示される
4691345	segv のために common_view.xml で句読文字の修正が行われない

**表 5** Sun ONE Calendar Server 5.1.1 で修正された国際化 (i18n) とローカリゼーション (l10n) 関連の問題 (続き)

バグ ID	説明
4698992	イベントアラームまたは仕事アラームが zh リリースで正しく表示されない
4698997	Calendar Server 5.1.1 では、アジア / テヘランタイムゾーンが必要
4704855	ローカライズ版で「期限切れ」が「アクション項目」ボックスの範囲を超える
4709766	グレーシリーズカラスキーマが zh_CN 地域で機能しない
4710923	メールのヘッダーが US-ASCII でエンコードされる
4712363	タイムゾーンを「Asia/Taipei」に設定すると、zh-TW のユーザデフォルト設定にエラーが表示される
4715294	電子メールでのロケールのイベント通知が破損する
4715297	ドイツ語版では、mail_eventpublish.fmt の条件に誤りがある
4715749	アジア地域で Calendar Server をインストールできない
4717494	フランス語版で Javascript エラーが発生する
4725586	ローカライズ版で Internet Explorer を使用すると、「ログイン」ページのログインボタンが破損して表示される
4727200	ソース i18n.xsl ファイルへの矛盾したパス名が作成される

---

# Calendar Server 5.1.1 インストールノート

---

**注意** Sun ONE Calendar Server は Network File System (NFS) のマウント済みパーティションをサポートしていません。NFS のマウント済みパーティションには、Calendar Server のいかなる構成要素 (実行可能ファイル、データベースファイル、構成ファイル、データファイル、一時ファイル、ログファイルなど) も、インストールまたは作成しないでください。

---

ここでは、Calendar Server 5.1.1 のインストール前に知っておくべき情報を紹介します。具体的な内容は次のとおりです。

- 必要なインストール権限
- サポートされているソフトウェアプラットフォーム
- ディレクトリサーバの要件
- ハードウェアの要件
- 推奨クライアントソフトウェア
- iPlanet Portal Server のサポート
- Calendar Server 5.1.1 のインストールにおける注意事項
  - ローカライズ版のインストール
  - Pre-Hotfix ファイルの削除
  - カスタマイズ可能ファイルをインストール時に保存
  - Sun ONE Calendar Server にデータを移行
- 限定版仮想ドメインモード
- 高可用性 (HA) 構成
- iPlanet Calendar Server 5.0 用 EOSL および 2.x JavaScript ユーザインタフェース (UI)

インストールの詳細と手順については、『Calendar Server インストールガイド』を参照してください。

## 必要なインストール権限

Calendar Server のインストール、再インストール、アップグレードを行うには、スーパーユーザの権限が必要です。Solaris などの UNIX システムの場合には、root (user ID = 0) としてログインするか root になる必要があります。Windows NT システムの場合には、システムに対する管理権限をすべて持つ管理者としてログインする必要があります。

## サポートされているソフトウェアプラットフォーム

Sun ONE Calendar Server 5.1.1 は、次のソフトウェアプラットフォームをサポートしています。

- Solaris™ 8 (5.8) オペレーティング環境
- Solaris™ 2.6 (5.6) オペレーティング環境
- Service Pack 6a 付属の Windows NT 4.0
- HP-UX 11.0 オペレーティングシステム

### Solaris™ 8 (5.8) オペレーティング環境

表 6 は、Solaris 8 (5.8) の必須パッチを示しています。最新のパッチリストについては、Calendar Server をアンバンドルした後、instsupp/ ディレクトリにある patches\_sparc\_SunOS\_5.8.list ファイルをチェックしてください。パッチ ID のダッシュの後には改訂番号です。この改訂番号以降のパッチが必要になります。これより後の改訂番号であれば問題ありません。これらのパッチは、下記の Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

**表 6** Solaris 8 (5.8) オペレーティング環境の必須パッチ

パッチ ID	説明
110934-03	SunOS 5.8: pkgtrans、pkgadd、pkgchk、および libpkg.a パッチ
109320-03	SunOS 5.8: LP jumbo パッチ
108974-11	SunOS 5.8: dada、uata、dad、sd および scsi ドライバパッチ
108977-01	SunOS 5.8: libsmmedia パッチ
108968-05	SunOS 5.8: vol/vold/rmmount パッチ
108975-04	SunOS 5.8: /usr/bin/rmformat および /usr/sbin/format パッチ
108528-09	SunOS 5.8: kernel update パッチ
108652-34	X11 6.4.1 Xsun パッチ

**表 6** Solaris 8 (5.8) オペレーティング環境の必須パッチ ( 続き )

パッチ ID	説明
109783-01	SunOS 5.8: /usr/lib/nfs/nfsd パッチ
108985-02	SunOS 5.8: /usr/sbin/in.rshd パッチ

## Solaris™ 2.6 (5.6) オペレーティング環境

表7は、Solaris 2.6 (5.6) の必須パッチを示しています。最新のパッチリストについては、Calendar Server をアンバンドルした後、instsupp/ ディレクトリにある patches\_sparc\_SunOS\_5.6.list ファイルをチェックしてください。パッチ ID のダッシュの後は改訂番号です。この改訂番号以降のパッチが必要になります。これより後の改訂番号であれば問題ありません。これらのパッチは、下記の Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

**表 7** Solaris 2.6 (5.6) オペレーティング環境の必須パッチ

パッチ ID	説明
107733-09	SunOS 5.6: リンカーパッチ
105568-23	SunOS 5.6: /usr/lib/libthread.so.1 パッチ
105210-38	SunOS 5.6: libc & watchmalloc パッチ
106040-17	Sun OS 5.6: X Input & Output Method パッチ
105633-59	OpenWindows 3.6: Xsun パッチ
105181-28	SunOS 5.6: kernel update パッチ
105669-10	CDE 1.2: libDtSvc パッチ
105284-41	Motif 1.2.7 実行時ライブラリパッチ
106409-01	SunOS 5.6: 繁体中国語 TrueType フォントを修正 (zh-TW リリースのみ)

**注** Solaris 2.6 (5.6) は Netscape Directory Server 4.12 と 4.16 をサポートしていますが、iPlanet Directory Server 5.1 はサポートしていません。

## Service Pack 6a 付属の Windows NT 4.0

Calendar Server 5.1.1 は、Service Pack 6a (またはこれ以上) が付属された Microsoft Windows NT 4.0 をサポートしています。Service Pack 6a は、必要に応じて下記の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/ntserver/nts/downloads/>

### Windows NT サーバでのインストールにおける注意事項

- Windows NT サーバのドメインで使用する場合は、一次ドメインコントローラ (PDC) に Calendar Server をインストールするか、ドメイン内にサーバをインストールする必要があります。Calendar Server はバックアップドメインコントローラ (BDC) にはインストールできません。
- 処理速度が遅いプロセッサを使用している Windows NT サーバでは、start-cal コマンドがタイムアウトする可能性があります。その場合には、Windows NT の「コントロールパネル」の「サービス」ダイアログボックスを使用して Calendar Server を起動してください。

## HP-UX 11.0 オペレーティングシステム

### CD-ROM からのインストール

Sun ONE Calendar Server 5.1.1 のインストール CD は、ISO 9660 形式の Rockridge 拡張子 (RRIP) で書かれています。Calendar Server 5.1.1 をインストール CD から HP-UX システムにインストールする場合は、ポータブルファイルシステム (PFS) が作動していることと、CD をマウントするのに pfs\_mount (1m) を使用していることを確認します。

PFS を使用方法の詳細については、HP-UX 製品マニュアルを参照してください。

### HP-UX 必須パッチ

HP-UX 11.0 サーバに Calendar Server 5.1.1 をインストールする前に、下記の Web サイトから入手できる 9/01 HP-UX 11.0 Quality Pack を入手してインストールしてください。

<http://www.hp.com>

### カーネルチューニング

Calendar Server 5.1.1 をインストールする前に、カーネルチューニングの指標として下表の設定値を使用してください (これらの設定値は、物理メモリ 2 GB、スワップ領域 2 GB の HP 9000 を基準としています)。

表 8 HP-UX 11.0 構成可能カーネルパラメータ

パラメータ	説明	新しい設定値
max_thread_proc	プロセス当たりの最大スレッド数	8192
nkthread	システム内の最大スレッド数	32768
maxdsiz	最大データセグメントサイズ制限、ヒープメモリ	1 GB (0x04000000)
maxtsiz	最大テキストサイズ	64 MB (0x04000000)
maxfiles_lim	プロセス当たりの最大オープンファイル数	32768
ncallout	保留できるタイムアウトの最大数	128 + nproc
nfile	システム全体での最大ファイル数	65536
ninode	メモリ内の最大iノード数	32768

カーネルは、HP-UX システム管理ツール (sam と kmtune) を使用するか、手動で変更します。

1. カーネルパラメータを変更するには、`/stand/system` ファイルを編集します。
2. `mk_kernel -o /stand/vmunix` を実行して新しいカーネルとカーネル関数セットを構築し、カーネルをリブート時に置き換えるよう指定します。
3. システムをリブートします。

### Calendar Server の起動

HP-UX 11.0 サーバでは、インストール後や再起動後に Calendar Server が自動起動されません。インストール後や再起動後に自動起動するためのオプションをインストール時に選択した場合でも、同じです。このため、`start-cal` コマンドを使用して Calendar Server を手動で起動しなければなりません。(4525117).

## ディレクトリサーバの要件

Sun ONE Calendar Server 5.1.1 は、次のディレクトリサーバをサポートしています。

- Netscape Directory Server 4.12 (以降) は、あらゆるソフトウェアプラットフォームでサポートされる
- iPlanet Directory Server 5.1 (以降) は、Solaris 2.6 (5.6) を除くあらゆるソフトウェアプラットフォームでサポートされる

注: iPlanet Directory Server 5.0 は、Calendar Server 5.1.1 と一緒に使用しないでください。ディレクトリサーバ要件の詳細については、『Calendar Server インストールガイド』を参照してください。

## ハードウェアの要件

Calendar Server 5.1.1 をインストールするハードウェアの要件は、次のとおりです。

- 標準システムの場合、約 500 MB のディスク容量。本稼動システムの場合は、少なくとも 1 GB 以上必要
- 128 MB の RAM。本稼動システムの場合、最適のパフォーマンスを得るには 256 MB から 1 GB 必要
- 高速アクセス用 RAID ストレージ (大型データベースでは使用を推奨)

## 推奨クライアントソフトウェア

Calendar Express は、JavaScript 対応ブラウザを必要とします。最適のパフォーマンスを得るために、Calendar Server 5.1.1 では次のブラウザを使用することをお勧めします。

表 9 Calendar Server 5.1.1 での使用が推奨されるブラウザのバージョン

ブラウザ	Solaris	Windows	Macintosh
Netscape™ Communicator	4.7x	4.7x	-
Microsoft Internet Explorer	-	5.0 または 5.5	5.0

## iPlanet Portal Server のサポート

Sun ONE Calendar Server 5.1.1 は、iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 4 および Mobile Access Pack (MAP) 3.0 でテストされています。

Calendar Server をインストールした後に Portal Server をインストールする場合は、「Calendar Server をインストールした後に Portal Server をインストールすると、/var/opt に対するアクセス権が変わる (4535775)」を参照してください。

## Calendar Server 5.1.1 のインストールにおける注意事項

- ローカライズ版のインストール
- Pre-Hotfix ファイルの削除
- カスタマイズ可能ファイルをインストール時に保存
- Sun ONE Calendar Server にデータを移行

### ローカライズ版のインストール

Calendar Server 5.1.1 のローカライズ版をインストールまたはアップグレードする場合、正しいアーカイブファイルを使用しているか確認してください。アーカイブファイルは、ファイル名に言語コードを含むローカライズ版を識別します。言語コードには、英語 (en - 必ず含まれます)、フランス語 (fr)、ドイツ語 (de)、スペイン語 (es)、日本語 (ja)、簡体中国語 (zh)、および繁体中国語 (zhtw) があります。

たとえば、ics-5\_1\_1-export-en-de-es-fr\_sparc-sun-solaris2\_6\_tar.gz は、英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語の Calendar Server 5.1.1 のローカライズ版を意味します。

インストールアーカイブファイルが必要な場合は、Sun のテクニカルサポート担当またはカスタマサービス担当までご連絡ください。

### 旧版のローカライズされたリソースの削除

Calendar Server のアップグレードを実行する場合は、インストールプログラムにより旧版のローカライズされたリソースが削除されます。iPlanet Calendar Server 5.1 を、英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語および日本語でインストールしている場合で説明します。

ics-5\_1\_1-export-en-de-es-fr\_sparc-sun-solaris2\_6\_tar.gz インストールアーカイブファイルを使用してアップグレードする場合、英語、ドイツ語、スペイン語およびフランス語の新しいローカライズされたリソースがインストールプログラムでインストールされますが、旧版の日本語のローカライズされたリソースは削除されます。

### Pre-Hotfix ファイルの削除

Calendar Server 5.1.1 をインストールする前にすべての \*.so\_pre-Hotfix\_\* ファイルを削除してください。server-root/cal/bin/plugins ディレクトリにあるファイルは必ず削除する必要があります。削除しなかった場合、これらのファイルの一部がこのディレクトリから自動的にロードされ、その結果、Calendar Server が正しく動作しない可能性があります。

## カスタマイズ可能ファイルをインストール時に保存

Calendar Server をアップグレードまたは再インストールする場合、次の拡張子を持つ Calendar Server の構成ファイルとカスタマイズが可能なファイルすべてを、インストールプログラムに保存することができます。

.xsl .xml .conf .gif .htm

インストールプログラムは、変更されたファイルを示すレポートを生成します。インストール終了後、このレポートを使用して、ユーザがカスタマイズした内容を保存したファイルから取り出し、新しくインストールした Calendar Server 5.1.1 ファイルにマージすることができます。

## Sun ONE Calendar Server にデータを移行

カレンダーデータを Sun ONE Calendar Server に移行するには、次の移行ユーティリティを使用します。

- ics2migrate
- ncs4migrate
- csmig

### ics2migrate

ics2migrate ユーティリティは、Calendar Server 2.x データと LDAP ユーザ設定を Calendar Server 5.1.1 に移行します。ics2migrate は *server-root*/cal/bin/ ディレクトリにインストールされます。

### ncs4migrate

ncs4migrate ユーティリティは、Netscape Calendar Server 4.x のカレンダーデータを Calendar Server 5.1.1 に移行します。Netscape Calendar Server 4.x のカレンダーデータを移行するための最新バージョンが必要な場合は、Sun テクニカルサポート担当者または顧客サービス担当者までご連絡ください。

### csmig

csmig ユーティリティは、Calendar Server 5.1.1 リリース以前に作成されたカレンダーデータベースを、LDAP カレンダー検索データベース (CLD) プラグインをサポートする新しいデータベースに移行します。

Calendar Server 5.1.1 と一緒にリリースされた csmig ユーティリティには、次の問題があることが判明しています。

- csmig migration ユーティリティに使用例の説明がない (4734453)

- **csmig migration ユーティリティ使用例の間違い (4734450)**

csmig のアップデート版は、Calendar Server 5.1.1 以降のリリースで使用できます。csmig を使用するための最新バージョンが必要な場合は、Sun のテクニカルサポート担当またはカスタマサービス担当までご連絡ください。

移行ユーティリティの使用方法については、『Calendar Server インストールガイド』を参照してください。

## 限定版仮想ドメインモード

Calendar Server は限定版仮想ドメインモードをサポートしているので、1 つの Calendar Server で複数のカレンダーのサイトをホストできます。完全な形の仮想ドメインのサポートは将来のリリースで組み込まれる予定ですが、仮想ドメイン機能の一部は Calendar Server 5.1.1 で利用できます (Calendar Server 5.0 パッチ 2 リリースで初めて提供したものです)。限定版仮想ドメインモードをご使用になりたい場合は、Sun のテクニカルサポート担当までご連絡ください。その他の情報については、下記の Web サイトを参照してください。

<http://knowledgebase.ipplanet.com/ikb/kb/articles/4950.html>

## 高可用性 (HA) 構成

Calendar Server の高可用性 (HA) 構成では、2 つの Solaris システムを使用して Calendar Server の 1 つのインスタンスを実行します。システムの 1 つに問題が発生すると、もう 1 つのシステムが代わって Calendar Server を実行します。その他の情報については、下記の Web サイトを参照してください。

<http://knowledgebase.ipplanet.com/ikb/kb/articles/8031.html>

この情報は Calendar Server 5.1 用に用意されたものですが、5.1.1 リリースにも適用できます。

**注:** Calendar Server HA 構成は、Sun Cluster 3.0 U1 および U2、また UNIX File System (UFS) を使って Solstice DiskSuite (SDS) 上でテストされています。Veritas Volume Manager (VxVM) または Veritas File System (VxFS) ではテストされていません。

## iPlanet Calendar Server 5.0 用 EOSL および 2.x JavaScript ユーザーインターフェース (UI)

iPlanet Calendar Server 5.0 は、2002 年 11 月 21 日までサポートされます。Calendar Server 5.0 はこの期日以降はサポートされませんので、5.1.1 リリースにアップグレードする必要があります。

Calendar Server 5.1.1 リリースをご希望の場合は、Sun のテクニカルサポート担当またはカスタマサービス担当までご連絡ください。

Calendar Server 5.0 リリースでサポートされている、バージョン 2.x JavaScript UI および WCAP コマンドの `fmt-out=text/js` オプションは、2002 年 11 月 21 日以降はサポートされません。また、Calendar Server 5.1、5.1.1 以降のリリースでもこれらの機能はサポートされません。

JavaScript UI または WCAP コマンドの `fmt-out=text/js` オプションでの Calendar Server の使用は補償しかねますので、XML ベース UI への移行をお勧めします。

---

## これまで判明している問題点と制限事項

Sun ONE Calendar Server 5.1.1 には次の問題があることが判明しています。問題の回避策がある場合には、回避策も記載してあります。

- 有効なカレンダーを作成するときに `cscal` ユーティリティがエラーを戻す (4769090)
- `csuser` ユーティリティで LDAP CLD プラグインを有効にしたユーザを作成できない (4749067)
- `storeevents.wcap` コマンド内の `replace=1` が、定期的イベントで機能しない (4738461)
- `cshttpd` プロセスがすべての IP アドレスで待機する (4737358)
- `csmig migration` ユーティリティに使用例の説明がない (4734453)
- `csmig migration` ユーティリティ使用例の間違い (4734450)
- HP-UX: `csexport` および `csimport` コマンドのライブラリエラーによる異常終了 (4734419)
- `import.wcap` が ENS 通知をトリガーしない (4729674)
- `cscomponents delete` が ENS 通知をトリガーしない (4725163)
- タイムゾーンを変更するとログインが必要という警告メッセージが必要 (4719346)
- Windows NT 上で `cshttpd` プロセスが終了する (4673164)
- 繰り返しの「終了日」がデフォルト値より前の日付であると、Calendar Server で作成されないインスタンスがある (4625452)
- 設定した日の翌日が定期的イベントの「終了日」として表示される (4622462)
- Netscape Communicator ではメール通知に問題が発生する (4560460)
- Netscape Navigator 4.x を使用して Macintosh 上で作成したイベントに破損データが含まれる (4556675)
- 検索文字列にアスタリスクが含まれていると、検索結果が期待どおりのものにならない (4555547)
- 受諾も拒否もしていない出席依頼に対してユーザがアラームを設定することができない (4552548)
- Calendar Express では繰り返しイベントに月の最終日を指定できない (4541444)
- インストールプログラムがデフォルトタイムゾーンを表示しない、またはその設定を許可しない (4541260)

- Internet Explorer 5.5 からのエクスポートが正しく動作しない (4540544)
- ターゲットディレクトリが存在していて -f オプションが指定されていないと、csbackup ユーティリティが失敗する (4539252)
- カレンダーの「概要」で「仕事」の表示方式が一貫していない (4538960)
- Calendar Server がカレンダーの二重予約を許可する (4538774)
- 会議がスケジュール設定がされたがカレンダーにエントリーがないユーザがある (4538591)
- 繰り返し ID (RID) が ISO8601 形式になっていない (4537733)
- cstool refresh コマンド実行後に Calendar Server にログインできない (4537598)
- グループカレンダー名にスペースが入っていると問題が生じる (4537454)
- ユーザが初めてログインしたときに、カレンダーの自動作成機能を無効にすることができない (4537234)
- Calendar Server をインストールした後に Portal Server をインストールすると、/var/opt に対するアクセス権が変わる (4535775)
- logout.wcap 呼び出しが失敗した場合でも、常に -1 (成功) のステータスを返す (4535769)
- Calendar Express で国際文字が正しく表示されない (4527700)
- アラーム電子メールは、ユーザの LDAP preferredLanguage 属性ごとにエンコードする必要がある (4526762)
- Internet Explorer ユーザが iCal 形式でエクスポートを行なった後、XML 形式でエクスポートを行えない (4525128)
- HP-UX: インストールや再起動を正常に行なった後、Calendar Server が起動しない (4525117)

#### **有効なカレンダーを作成するときに cscal ユーティリティがエラーを戻す (4769090)**

cscal を使用して、大文字小文字が異なる同じ名前 (Meetings と meetings など) カレンダーを作成した場合、Calendar Server ではそれぞれのカレンダーが作成されますが、2 番目の cscal 文はエラーを返します。例:

```
./cscal -o tchang create Meetings
Calendar Meetings has been created
./cscal -o tchang create meetings
Calendar meetings has been meetings
LDAP error 20: Type or value exists
```

この問題が発生するのは、icsCalendarOwned 属性が大文字小文字を区別しない文字列であり、tchang:Meetings と tchang:meetings が同じであるとみなされるためです。

LDAP サーバと Calendar Server データベース間では同期が行われません。Calendar Server データベースの検索は可能ですが、LDAP カレンダー検索を使用すると同じスペルのカレンダーを検索できない場合があります。この場合、LDAP カレンダー検索では `tchang:Meetings` だけを戻しますが、Calendar Express UI はエラーを返しません。

### 回避策

特定の所有者が、大文字小文字の異なる同じ名前のカレンダーを使用することは避けてください。

### csuser ユーティリティで LDAP CLD プラグインを有効にしたユーザを作成できない (4749067)

LDAP CLD プラグインが有効になっていると、csuser ユーティリティは新規ユーザを作成できません。その場合、「LDAP error 2: Protocol error」が戻され、LDAP サーバのログファイル (`/slapd-hostname/logs/errors`) に「no values for type icsDWPHost」と示されます。

### 回避策

この問題は Calendar Server 5.1.1 20021030 ホットフィックスで修正されました。このホットフィックスをインストールしていない場合は、次の手順で新規ユーザを作成できます。

1. `ics.conf` ファイルを編集して LDAP CLD プラグインを無効にします。

```
caldb.cld.type = "local"
service.dwp.enable = "no"
```

2. `csuser` を使用して次のように新規ユーザエントリを作成します。

```
csuser -g Joe -s Smith -y password -l en -c jsmith create jsmith
```

3. オプションで、`csattribute` を使用して `icsDWPHost` 属性を設定することもできます (Calendar Server のログイン時の自動設定のままではなく、明示的に値を変えたい場合)。

```
csattribute -a icsdwphost=hostname add jsmith
```

次に、`csattribute` を使用して、ユーザの LDAP 属性を一覧にし、その属性が正しいかどうかを確認することもできます。

```
csattribute list jsmith
```

4. 新規ユーザをすべて作成したら、`ics.conf` ファイルを編集して、LDAP CLD プラグインを再び有効にします。

```
caldb.cld.type = "directory"
service.dwp.enable = "yes"
```

### **storeevents.wcap コマンド内の replace=1 が、定期的イベントで機能しない (4738461)**

storeevents.wcap コマンド内の新しい代替パラメータは、単一のイベントまたは定期的でないイベントのみで機能する。定期的なイベントを変更する場合は、代替パラメータは無視され、複数の値フィールドが元のデータに付加される。

#### **回避策**

必須パラメータでイベントを再度作成します。たとえば、cat1;cat2 カテゴリを持つ定期的なイベントを cat3;cat4 と置き換えたい場合は、replace=1 カテゴリにより、cat1;cat2;cat3;cat4 にします。cat1;cat2 カテゴリを置き換える場合は、イベントを完全に削除し、cat3;cat4 で再度作成します。

### **cshttpd プロセスがすべての IP アドレスで待機する (4737358)**

専用の IP アドレスに service.listenaddr パラメータを設定する場合は、cshttpd プロセスはすべての IP アドレスで待機したままになります。

#### **回避策**

service.listenaddr パラメータは使用しないでください。その代わりに、次の新しいパラメータを ics.conf ファイルに追加し、専用のホスト名または IP アドレスに設定します。

```
service.http.listenaddr = "hostname or IP-address"
```

また、DWP プロセス (csdwpd) を専用の IP アドレスに待機させる場合は、次の新しいパラメータを ics.conf ファイルに追加します。

```
service.dwp.listenaddr = "hostname or IP-address"
```

どちらかのパラメータを設定したら、Calendar Server を再起動します。

### **csmig migration ユーティリティに使用例の説明がない (4734453)**

オプションを使用せずに csmig を実行すると、構文と例が表示されます。ただし、csmig の説明には使用例は示されていません。

#### **回避策**

csmig の実行方法については、『Calendar Server 5.1.1 インストールガイド』を参照してください。

### **csmig migration ユーティリティ使用例の間違い (4734450)**

オプションを指定せずに csmig を実行すると、構文と例が表示されます。ただし、使用例の表示には次の問題があることが判明しています。

- `csmig` には `-c` と `-r` オプションが必要であり、`csmig` の 5 つの使用例は正しくない
- `-t` オプションの `csmig` デフォルトディレクトリが間違っている。デフォルトディレクトリは、`MigrateDB` ではなく `MigratedDB`

#### 回避策

`csmig` の構文および情報については、『Calendar Server 5.1.1 インストールガイド』を参照してください。

#### HP-UX: `csexport` および `csimport` コマンドのライブラリエラーによる異常終了 (4734419)

HP-UX 上では、`csexport` および `csimport` コマンドにライブラリエラーが発生します。

#### 回避策

Calendar Express のエクスポートおよびインポートオプションを使用して、カレンダーデータをエクスポートおよびインポートします。

#### `import.wcap` が ENS 通知をトリガーしない (4729674)

`appid` パラメータを含む `import.wcap` コマンドは ENS 通知をトリガーしません。

#### 回避策

なし。

#### `cscomponents delete` が ENS 通知をトリガーしない (4725163)

`cscomponents delete` コマンドは、ENS 通知メッセージをトリガーしません。

#### 回避策

なし。

#### タイムゾーンを変更するとログインが必要という警告メッセージが必要 (4719346)

カレンダーのタイムゾーンを変更しても、その変更はすぐには反映されません。

#### 回避策

Calendar Express からログアウトし、再度ログインするとタイムゾーンが変更されます。

### **Windows NT 上で cshttpd プロセスが終了する (4673164)**

Windows NT 上で実行している 4 つの cshttpd プロセスのうち、1 つのプロセスが終了します。しかし、他の Windows NT サーバ上では Calendar Server は問題なく作動しました。

通常の負荷環境ではプロセスが実行されたため、この問題が発生する可能性やこの問題による影響は小さいと考えられます。Windows NT サーバでは通常見られないような極端な負荷環境で、cshttpd プロセスの 1 つがクラッシュしたケース (再現するのは困難) もありますが、それは特定のサーバだけで発生したケースです。

Calendar Server の Windows NT テストでは、機能テスト、手動テスト、負荷テストの厳しい QA 基準をクリアし、以前のバージョンより信頼性の高いものになりました。このクラッシュの問題は非常にまれなケースとして報告されています。すべてのデータを考慮して、ほとんどの状況ではこの問題は発生しないものと判断しています。

**注:** マルチ CPU で Windows NT を導入している場合、Calendar Server アーキテクチャにより、cshttpd プロセスが 1 つ終了しても、残りのプロセスがユーザの要求を確実に処理します。または、start-cal コマンドを使用するか「コントロールパネル」から「サービス」ダイアログボックスを使用して、Calendar Server をいつでも再起動することができます。この時、エンドユーザはもう一度ログインする必要があります。

### **繰り返しの「終了日」がデフォルト値より前の日付であると、Calendar Server で作成されないインスタンスがある (4625452)**

繰り返しイベントを作成します。「日ごと」タブで全ての平日をクリックし、デフォルトの「終了日」より前に繰り返しイベントの終了日を指定します。Calendar Server は、このイベントの 1 つまたは 2 つのインスタンスだけを作成します。

### **回避策**

デフォルトの「終了日」またはこれ以降の日に「終了日」を指定し、不要なイベントを削除します。

### **設定した日の翌日が定期的イベントの「終了日」として表示される (4622462)**

すべての平日にイベントを作成し、終了日を設定します。この後、イベントを編集して「繰り返しのパターンの変更」をクリックすると、最初に設定した「終了日」の翌日が新しい「終了日」となります。繰り返しイベントの場合、Calendar Server は現地時間ではなく Zulu 時間を使用します。また、「終了日」のデフォルトは「終了日を指定しない」に再設定されます。OK をクリックすると、イベントの「終了日」の日付が「終了日を指定しない」に変わります。この問題は 4537499 と同様です。

### 回避策

繰り返しイベントに対する項目を選択した後、選択内容に目を通し、「終了日」のデフォルトが「終了日を指定しない」に設定されていないことを確認します。確信がない場合は、「OK」ではなく「キャンセル」をクリックしてください。

### Netscape Communicator ではメール通知に問題が発生する (4560460)

Communicator を使用している場合、Calendar Express のメール通知で問題が発生する可能性があります。Calendar Server 通知は、Outlook クライアントを対象に最適化されています。通知は、テキスト / プレーン、テキスト /html、テキスト / カレンダーという、マルチパート MIME 形式で送信されます。これらの形式は、*server-root*/cal/bin/config/en ディレクトリに定義されています。

これらのデフォルト形式を使用した場合、Communicator ではイベント通知が正しく表示されません。Communicator が、Outlook 用に最適化されたテキスト / カレンダー形式を処理しようとするためです。その結果、Communicator に「詳細」、「同意する」、および「同意しない」ボタンが不正に表示されます。また、「Error: 3.0 Unknown: (::)」が表示されます。

### 回避策

1. 「Communicator」 ツールバーから「編集」、「設定」、「ナビゲータ」、「アプリケーション」の順に進み、ics 拡張子进行处理するアプリケーションを作成します。MIME 形式はテキスト / カレンダー 2 とし、使用するアプリケーションは Notepad、Outlook などとします。これはすべてのユーザクライアントで必要となるため、大規模な配備には向いていません。
2. text/html 形式が text/calendar 形式の後に位置するように、*server-root*/cal/bin/config/en ディレクトリにある形式ファイルを変更します。ただし、この結果、Outlook の相互運用性が無効となる可能性があります。

カレンダー表示名を LDAP CN に設定する方法の詳細については、下記の Web サイトを参照してください。

<http://knowledgebase.iplanet.com/ikb/kb/articles/4964.html>

### Netscape Navigator 4.x を使用して Macintosh 上で作成したイベントに破損データが含まれる (4556675)

Netscape Navigator 4.x を使用して Macintosh 上で新しいイベントや仕事を作成し、名前、場所、および説明を追加すると、説明の末尾に余分な文字が追加されます。

### 回避策

Macintosh システム上で新しいイベントや仕事を作成して名前、場所、および説明を追加するには、Netscape Navigator 6.x または Internet Explorer 5.x を使用してください。

### **検索文字列にアスタリスクが含まれていると、検索結果が期待どおりのものにならない (4555547)**

検索文字列にアスタリスク (\*) が含まれている場合、カレンダーを検索したときに期待どおりの結果が返されるとはかぎりません。

#### **回避策**

アスタリスクを含まない、3文字以上の検索文字列を使用して再度、検索します。

### **受諾も拒否もしていない出席依頼に対してユーザがアラームを設定することができない (4552548)**

受諾も拒否もしていない出席依頼に対して、ユーザがアラームを設定しようとしても、この設定は保存されません。また、受諾も拒否もしていない出席依頼を表示させて「OK」をクリックすると、エラーが http.log に記録されます。

#### **回避策**

受諾も拒否もしていない出席依頼に対してアラームを設定しないようにします。

### **Calendar Express では繰り返しイベントに月の最終日を指定できない (4541444)**

Calendar Express では、毎月のイベントを (日付に関係なく) 月の最終日に指定できません。

#### **回避策**

毎月のイベントを「月の最終日」に指定するには、イベントを毎月 31 日に繰り返すようにスケジューリングします。Calendar Server は、月の日数が 31 日未満である場合、自動的にその月の最後の日付に調整します。

### **インストールプログラムがデフォルトタイムゾーンを表示しない、またはその設定を許可しない (4541260)**

Calendar Server のデフォルトタイムゾーンは、「America/New\_York」です。インストールプログラムはこのデフォルトを表示しません。また、その変更方法もありません。さらに、システムのデフォルトタイムゾーン (OS に依存) が「America/New\_York」ではない場合も、インストールプログラムでこのデフォルトタイムゾーンに一致する Calendar Server タイムゾーンを探しません。

#### **回避策**

インストール時にはありません。インストール後にファイルをインポートする際に、次のタイムゾーンパラメータを ics.conf ファイルに設定できます。

```
! Timezone ID used when importing files.  
calstore.default.timezoneID = "America/New_York"
```

詳細については、下記の Web サイトを参照してください。

<http://knowledgebase.ipplanet.com/ikb/kb/articles/4996.html>

### Internet Explorer 5.5 からのエクスポートが正しく動作しない (4540544)

Internet Explorer 5.5 を使用している場合、Calendar Express の Export 機能でカレンダーを .ics 形式や .xml 形式ではなく、HTML ファイルとして保存します。

#### 回避策

1. Calendar Express の「オプション」ビューで、エクスポートするカレンダーを「カレンダーをエクスポート」に追加し、「エクスポート」をクリックします。
2. 「ファイルダウンロード」ダイアログで「現在の場所からファイルを開く」をクリックします。「ファイルをディスクに保存」を選択しないでください。選択するとカレンダーが HTML ファイルとして保存されてしまいます。
3. 「OK」をクリックします。Internet Explorer が「ファイルダウンロード」ダイアログを再度表示します。
4. この2つ目の「ファイルダウンロード」ダイアログで「ファイルをディスクに保存」をクリックします(デフォルト状態ですでに選択されています)。
5. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスでダウンロードフォルダを選択し、「OK」をクリックします。エクスポート機能が .ics 形式または .xml 形式でカレンダーを保存します。

### ターゲットディレクトリが存在していて -f オプションが指定されていないと、csbackup ユーティリティが失敗する (4539252)

ターゲットバックアップディレクトリがすでに存在しており、かつ -f オプションを指定しなかった場合、csbackup ユーティリティは失敗します。ターゲットディレクトリ内が空であっても、結果は同じです。たとえば backupdir が存在する場合、次のコマンドは失敗します。

```
# ./csbackup database backupdir
```

#### 回避策

ターゲットバックアップディレクトリがすでに存在しており、csbackup ユーティリティを実行する場合は、-f オプションを使用します。たとえば、次のようになります。

```
# ./csbackup -f database backupdir
```

存在しないターゲットバックアップディレクトリを指定して、csbackup を使用してディレクトリを作成することもできます。

### カレンダーの「概要」で「仕事」の表示方式が一貫していない (4538960)

「概要」および「日別」ビューの日付バナーのすぐ下に表示される「仕事とイベント」ボックス内の仕事表示方式が一貫していません。

#### 回避策

Calendar Express は、「概要」および「日別」ビューの「仕事とイベント」ボックス内では、次のように仕事を表示します。

- 期限切れの仕事は実際の日付を基準としており、バナーに表示される日付に関係なく、必ず「期限の過ぎた仕事」という見出しとともに赤のテキストで表示されます。
- バナーの日付が期限である仕事も、すべて表示されます。
- バナーの日付より後の未来の仕事は表示されません。

カレンダーには何百から何千個の未来の仕事が設定されている可能性があります、それらをすべて表示すると「仕事とイベント」ボックスがすぐにいっぱいになってしまいます。そのため、Calendar Server は未来の仕事を「仕事とイベント」ボックスに表示しません。カレンダーに設定されている未来の仕事を表示するには、「週別」や「月別」のビューを使用してください。

### Calendar Server がカレンダーの二重予約を許可する (4538774)

ics.conf ファイル内の user.allow.doublebook が「no」に設定されている場合でも、Calendar Server はユーザのカレンダーの二重予約を許可します。

#### 回避策

ユーザのカレンダーでの二重予約を防止するには、-k no オプションを付けて cscal ユーティリティを各カレンダーに対して実行します。

### 会議がスケジュール設定がされたがカレンダーにエントリがないユーザがある (4538591)

デフォルトカレンダーを持たないユーザに会議への出席を依頼するには、このユーザのメールアドレスを指定する必要があります。Calendar Server は、「mailto:」を使用してイベントの詳細を知らせる電子メールメッセージをユーザに送信します。ただし、このユーザのデフォルトカレンダーは作成されません。

#### 回避策

Calendar Server が新しいカレンダーユーザ用のデフォルトカレンダーを作成するのは、次のいずれかの場合です。

- 新しいユーザが Calendar Server に初めてログインしたとき

- 管理者が `cscal` ユーティリティの `create` コマンドを使用して、新しいユーザを作成したとき (ユーザが、ディレクトリサーバにすでに存在している必要がある)

`cscal` については、『Calendar Server 管理者ガイド』を参照してください。

#### 繰り返し ID (RID) が ISO8601 形式になっていない (4537733)

Calendar Server は、RID を ISO8601 形式に変換しません。

##### 回避策

RID で渡す前に `time_t` 形式に変換します。つまり、ISO8601 形式の作成日付をまず Zulu パージョンの ISO8601 に変換してから `time_t` に変換します。

**注:** C の `mktime()` 関数は使用しないでください。この関数が使用するシステムのタイムゾーン情報は、Calendar Server やユーザ選択のタイムゾーンに正しくマップされていない場合がありますためです。

#### `cstool refresh` コマンド実行後に Calendar Server にログインできない (4537598)

`cstool refresh` コマンドを実行して、強制的に Calendar Server の設定を更新した場合、Calendar Express からログインできません。

##### 回避策

`stop-cal` and `start-cal` コマンドを使用して Calendar Server を終了し、手動で再起動します。設定は更新されず、Calendar Express からログインできるようになります。

#### グループカレンダー名にスペースが入っていると問題が生じる (4537454)

グループカレンダー名の先頭や末尾にスペースがある場合、Calendar Server はスペースがないグループカレンダーを新たに作成します。

##### 回避策

グループカレンダー名の先頭や末尾にスペースを入れないようにします。

#### ユーザが初めてログインしたときに、カレンダーの自動作成機能を無効にすることができない (4537234)

デフォルトでは、新しいユーザが Calendar Server に初めてログインすると、デフォルトカレンダーが作成されるように設定されています。現時点では、この機能を無効にするオプションはありません。

## 回避策

なし。ただし、この機能を無効にする構成パラメータを将来のリリースに組み込む予定です。

### **Calendar Server をインストールした後に Portal Server をインストールすると、/var/opt に対するアクセス権が変わる (4535775)**

Calendar Server をインストールした後に Portal Server をインストールすると、/var/opt へのアクセス権が 0700 (drwx-----) に変わります。この後 Calendar Server を再起動 (またはリブート) しようとする、次のエラーが発生します。

```
Starting csadmin  
Fatal error 70: Cannot open calendar database  
csadmin is not started  
Calendar service(s) not started
```

## 回避策

Portal Server をインストールした後、/var/opt ディレクトリのアクセス権を 0775 に変更します。

### **logout.wcap 呼び出しが失敗した場合でも、常に -1 (成功) のステータスを返す (4535769)**

ログアウトが失敗した場合でも、logout.wcap 呼び出しは常に -1 (成功) を返します。

## 回避策

セッションがまだ有効であるかどうかをチェックするには、check\_id.wcap コマンドを呼び出し、返されてくる X-NSCP-WCAP-CHECK-ID プロパティを確認します。値がゼロ (0) であればセッションは無効であり、ログアウトは成功しています。値が 1 であればセッションはまだ有効であるため、logout.wcap を呼び出して再度ログアウトする必要があります。

### **Calendar Express で国際文字が正しく表示されない (4527700)**

csresource などの Calendar Server コマンドラインユーティリティに UTF-8 以外のエンコーディングを使用して入力した国際文字は、Calendar Express では正しく表示されません。

## 回避策

国際文字を含んでいるコマンドラインパラメータを Calendar Express で正しく表示するには、UTF-8 エンコーディングを使用して文字を入力してください。

**アラーム電子メールは、ユーザの LDAP preferredLanguage 属性ごとにエンコードする必要がある (4526762)**

イベントまたは仕事のアラーム電子メールを受信した場合、そのメッセージはユーザの LDAP preferredLanguage 属性にしたがってエンコードされます (たとえば、ヨーロッパのユーザは ISO-8859-2)。この問題は、西ヨーロッパ、中央ヨーロッパ、2 バイト文字の日本語、中国語、韓国語を含むほとんどの言語で修正されています。しかし、アラビア語、ヘブライ語、ロシア語およびトルコ語では修正されていません。これらの言語を使用するユーザは、ISO-8859-1 でエンコードされたアラーム電子メールを受信します。

**回避策**

なし。

**Internet Explorer ユーザが iCal 形式でエクスポートを行なった後、XML 形式でエクスポートを行えない (4525128)**

Internet Explorer 5.5 以降を使用してカレンダーを iCal 形式でエクスポートした後に XML 形式でカレンダーのエクスポートを行うことはできません。Internet Explorer は、エクスポートするファイルの保存場所を選択するための「保存」ウィンドウを表示しません。

**回避策**

Internet Explorer の「更新」ボタンをクリックしてからカレンダーをエクスポートします。または、「表示」や「カレンダー」などの Calendar Express のほかのウィンドウにいったん移動してから「オプション」ウィンドウに戻り、カレンダーをエクスポートします。

**HP-UX: インストールや再起動を正常に行なった後、Calendar Server が起動しない (4525117)**

HP-UX 11.0 サーバでは、インストール後や再起動後に Calendar Server が自動起動されません。インストール後や再起動後に自動起動するためのオプションをインストール時に選択した場合でも、同じです。

**回避策**

start-cal コマンドを使用して Calendar Server を手動で起動します。

---

# Calendar Server 5.1.1 マニュアル

次のマニュアルは Calendar Server 5.1.1 リリース用に改訂されました。マニュアル番号がある場合は、カッコ内に表示されています。

- Sun ONE Calendar Express オンラインヘルプ
- 『Calendar Express 5.1.1 の新機能』(816-7833-10)
- 『リリースノート』(816-6450-10)
- 『Sun ONE Calendar Server インストールガイド』(816-7829-10)
- 『Sun ONE Calendar Server 管理者ガイド』(816-7830-10)
- 『Sun ONE Calendar Server プログラマーズガイド』(816-7831-10)
- 『Sun ONE Messaging and Collaboration スキーマリファレンス』(816-6451-10) - iPlanet™ Messaging Server と Sun ONE Calendar Server の両方に関する LDAP スキーマ情報が記載されています。
- 『Sun ONE Messaging and Collaboration イベント通知サービスマニュアル』(816-7832-10) - Calendar Server 5.1.1 と Messaging Server の一般情報と製品固有の ENS 情報が記載されています。

Calendar Express ソフトウェアでは、Calendar Express オンラインヘルプを利用できます。その他の Calendar Server マニュアルは、下記の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1calsrv?l=ja#hic>

## マニュアルに関する変更

### **4764577 5.1.1 フロントエンドサーバおよび 5.1 バックエンドサーバの構成はサポートなし**

フロントエンドおよびバックエンドサーバの構成の場合は、すべてのサーバで同じリリースの Calendar Server を稼動している必要があります。たとえば、Calendar Server 5.1.1 を稼動するフロントエンドサーバと 5.1 を稼動するバックエンドサーバを設定することはできません。この構成では、すべてのサーバが Calendar Server 5.1.1 を稼動している必要があります。

---

# Calendar Server 5.1.1 ローカライゼーション

Sun ONE Calendar Server 5.1.1 は、フランス語 (fr)、ドイツ語 (de)、スペイン語 (es)、簡体中国語 (zh-CN)、および繁体中国語 (zh-TW) でローカライズされています。日本語 (ja) でもローカライズされますので、日本版のリリースに関する発表に注意してしてください。ローカライズ版をご希望の場合は、Sun のテクニカルサポート担当またはカスタマサービス担当までご連絡ください。

ローカライズされた Calendar Server に Calendar Express エンドユーザがアクセスするには、その言語の表示に必要な文字セットをエンドユーザのブラウザの設定で使用できる必要があります。

エンドユーザに preferredLanguage LDAP 属性を設定する必要がある場合もあります。

preferredLanguage、の現在の設定を決定するには、csattribute ユーティリティを使用します。

```
csattribute -v list userid
```

*userid* はエンドユーザのユーザ ID です。

preferredLanguage が、稼動中のリリースの言語コードに設定されていない場合は、csattribute を使用して再設定します。たとえば、次のコマンドはユーザ bkamdar の言語コードをフランス語 (fr) に再設定します。

```
csattribute -a preferredLanguage delete bkamdar  
csattribute -a preferredLanguage=fr add bkamdar
```

インストールにおける注意事項については、「ローカライズ版のインストール」を参照してください。

特定のローカライズ版では次のような考慮事項があります。

- 繁体中国語 (zh\_TW) - デフォルトのタイムゾーンが Asia/Taipei になっていません。Calendar Express のユーザは、「設定」タブの「オプション」でタイムゾーンを手動で「Asia/Taipei」に設定する必要があります。オンラインヘルプでは、選択できるオプションに Asia/Taipei がありませんが (バグ ID 4747268)、「Calendar Express タイムゾーンの設定」で利用できるようになっています。
- 日本語 (ja) - 5.1.1 の英語マニュアルセットには、「Calendar Server 5.1.1 マニュアル」節に示されているタイトルがあります。日本版リリースでは、次の日本語マニュアルのみメディアキットに含まれています。『Calendar Express 5.1.1 の新機能』、『インストールガイド』、『管理者ガイド』、『プログラマーズガイド』、および『イベント通知サービスマニュアル』

---

## 問題点の報告方法

Sun ONE Calendar Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマサポートに連絡してください。

- Sun ONE サポート Web サイト :

<http://www.sun.com/service/sunone/software/index.html>

上記のサイトから、問題を記録するための CaseTracker ツールと CaseView ツールを利用できます。

- メンテナンス契約に記載されている電話番号

問題を迅速に解決するために、カスタマサポートへ連絡する際は次の情報を提供してください。

- トラブルの説明。トラブルが発生している状況とそのトラブルが運用に及ぼしている影響を含む
- トラブルを再現するために、これまでに行った方法の詳細な手順
- トラブルが発生した環境に関する情報。Calendar Server のバージョン、マシンのプラットフォーム、オペレーティングシステムのバージョン、およびトラブルに関係している可能性があるパッチやソフトウェア、エラーログやコアダンプなど

問題点を報告しやすいように、Sun では `capture_environment.pl` ツール、使用中の Calendar Server 環境 (`ics.conf` ファイル、ログファイル、カレンダーデータベースファイル、プラットフォーム情報、およびコアファイルなど) を検出する Perl スクリプトを提供しています。これらのファイルは Calendar Server の開発で問題のデバッグに利用できます。

### `capture_environment.pl` ツールの実行手順

1. 必要に応じて、カスタマサポートから `capture_environment.pl` ツールをダウンロードしてください。
2. 必要に応じて、Perl をインストールしパスに追加してください (Perl をインストールできない場合は、`capture_environment.pl` ファイルの手順を参照してください。ご使用の Calendar Server 環境でスナップショットを作成する方法が記載されています)。
3. UNIX システムの場合には、`root` としてログインし、Windows NT システムでは Administrator でログインします。
4. `capture_environment.pl` ツールは次のように実行します。ファイルが `archive_directory` という名のディレクトリにコピーされます。UNIX システム上では、すべてのファイルは `tar_file` という名の `tar` ファイルに置かれます。一方、Windows NT システム上では、`archive_directory` 内のファイルを Zip ファイルに手動で追加する必要があります。

5. tar\_file または Zip ファイルをカスタマサポートへ送信してください。

## 詳細情報について

その他の情報については、下記の Web サイトを参照してください。

- Sun ONE マニュアル  
<http://docs.sun.com/db/prod/sunone?l=ja#hic>
- Sun ONE 製品およびサービス  
<http://www.sun.com/software/>
- Sun ONE サポートおよび基礎知識  
<http://www.sun.com/service/sunone/software/index.html>
- Sun ONE コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>
- Sun ONE 開発者情報  
<http://developer.iplanet.com/>
- Sun ONE ソフトウェアトレーニング  
<http://www.sun.com/software/training/>

ページのトップへ

---

Sun™ ONE Calendar Server の使用には、ライセンス契約に記載されている条件が適用されます。  
Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Sun ONE、iPlanet、および Sun、Java、Sun ONE をベースとしたあらゆる商標とロゴは、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. 商標または登録商標です。